

第7回幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和4年11月18日（金）午後3時～午後4時30分

場 所 庁議室

委 員 神谷、鈴木、曽根、三浦

そ の 他 市長、企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長

議事録作成者 企画課 内田

1. 議題

（1）市長への提言後の動向について

・9/28（木）総合教育会議

○企画課長

この会議から発出した提言は、総合教育会議で、市長が教育委員会に依頼しました。
（詳細については議事録に基づき説明）

・教育委員会の取り扱い

○学校教育課主任指導主事

10/28 の定例教育委員会において、方向性も一致しており、承認されました。11/22
の定例教育委員会に向け、方策の検討を事務局で行っています。

○委員

総合教育会議で教育長が、一日中ゲームをやるのが幸せな子に対し、指導が必要な可能性について言及しています。本当に考え抜いた結果であるのならば、このような子も認めていく社会に進んでいく視点も重要であると思います。また、幸せを考える時に自分の幸せについて考えがちですが、他者の幸せについての視点も重要です。

○企画課長

総合教育会議で教育長のゲームに対する発言に対し、新美教育委員は否定的ではなく、ゲームを続けるために必要なことや、プロゲーマーとして生計をたてるために必要なことを学ぶ必要性を発言していることから、教育委員会としても時代の背景も考慮したうえで多様性を認めていく考え方を持っていると思います。

○委員

教育長と新美教育委員の議論はとても良い議論だと思います。もっと議論を深めていただきたいと思います。

○委員長

ゲームが良いか悪いかの判断はできませんが、多様性を認めながら導いていく必要があります。

今日はいろいろな意見交換できたと思います。私は、今年度、半田商業高校の授業を受け持つ機会をいただきました。1 学期は多様性を学ぶために複数の経営者の話を聞く場を設けました。2 学期は結婚式という切り口でまちづくりを考えることを行い、10 月 1 日の 85 祭りでは模擬結婚式を行いました。高校生は役割やちょっとした課題を与えれば、自分たちが主体となって、半田市のいいところを探したりしてくれました。また、自分がどう生きていきたいかという発表では一番多く出た言葉が「コミュニケーションが大切」ということでした。今回の授業を通してちょっとしたアドバイスだけで、コミュニケーションを取りながらやっていけると実感しました。自分たちで考えて、コミュニケーションをとって、想像力を働かせながら行っていく教育が良いのではないのでしょうか。

親として、この会議の委員長としても、提言に対する教育現場の取り組みを見守っていきたいと思います。

○委員

中学校を不登校で卒業した後に仕事を探していた子を私の会社でお預かりしたことがありました。少しの期間しか働きませんでしたが、ゲームが得意な子で、その後、東京に行き、プログラマーとして生計をたてています。学校が好きではなくても、ゲームが好きで、それを職業にしている、そのような生き方を認めてあげられる価値観と、学校生活を大切にする価値観の狭間で、学校の先生方はどのように関わっていくか非常に難しい問題だと思います。

○委員

まさに、個と集団の関係だと思います。自分の行動が周りの子にどのような影響があるかも考えさせる教育が必要だと思います。時間軸で言うならば 10 年後、20 年後を考える必要もあると思います。子を叱る役割は PTA も担う必要があると思います。親と先生が語り合う機会が必要だと思います。

○委員長

商業高校の生徒で「私は一生、媚を売って生きていく」と冗談っぽく話していた子がいました。今の子どもはいい子が多いと思います。悪く言えば媚を売っているといえます。私はその子に

対し「一生媚を売ることが幸せか」と問いかけました。その子はその問いに答えませんでした。問いかけをして考えてもらうことが教育では重要だと思います。

○委員

学校で大切なのは真剣に対話することで、自分の思いをぶつけることができ、周りの子や大人がその思いと一緒にどこまで聞いてあげられるかが大切だと思います。また、親と先生とは信頼関係が重要です。信頼関係があれば率直に意見交換でき、協力して子どもにとって良いアプローチができると思います。しっかり対話をして、しっかり考えるには時間が必要です。考えをまとめるまで、しっかり待ってあげられる時間を大切にしたいと思います。

ただし、新型コロナの影響によりコミュニケーションをとる機会が減っていること、行動に制限があることが、教育にとってマイナスに働いていることが気がかりです。

○委員長

すべてにおいて、コミュニケーションが重要と思います。

この会議は今後、幸せを実現するための教育を進めていく教育現場の取組をジャッジする場ではありません。取組のためのアイデアなどを一緒に考えていけたら良いと思います。

(2) 学校参観の意見交換

○委員長

小学校で英語の発音に不安がありそうな先生も英語の授業でタブレットを使って、正しい発音を教えていました。

○委員

参観した授業は全部、タブレットを活用して授業を行っていました。問いの答えはタブレットに入力すれば、全員の回答がすぐ画面で見ることができます。すごいと感じました。

○委員

見たい子の回答をみることもできます。全員の回答を簡単に見ることができます。

○委員長

タブレットの簡易さに慣れて、あまりに簡単に回答が得られるのは良くないと思います。タイピングと、回答の過程を考えることが大切だと思います。子どもから地図記号がなぜ必要か聞かれ、答えることができませんでした。子どもも必要かどうかを考えていく時代だと思いました。

昔と同じことを同じように続けていく必要はないと思います。

○委員

30 年前、15 年前、現在と学校現場を見る機会がありました。先生方は良くやっていたいていと感じました。一番心配に感じたことは、今の子どもたちが、いい子すぎる、従順すぎる点です。優しさだけでは、世界の荒波の中で勝負できない時代です。人間性をどのように育てていくかをもっと一緒に考えてほしいと感じました。例えば「幸せにとって受験とは何か」などのテーマで議論することで幸せについて見えてくると思います。ぜひ取り扱ってもらいたいと思いました。

○委員

落ち着いており、優等生が多いと感じました。技術の授業を見て、感想は子どものペースで作業が進んでおり工程が子どもによってまちまちの状況の中で、安全を確保している先生が非常に大変だろうなと思います。タブレットも有効に活用していました。

○委員長

このような機会や指導案を作ることも大変ではないですか。

○学校教育課主任指導主事

授業力を上げる一つの取組であると考えています。

○委員

成果は感じていますか。

○学校教育課主任指導主事

比較検討したことはありませんので、正確なお答えはできませんが、学校参観を行わなければ、確実に授業を作る能力が低下すると考えています。1 年に 1 回はしっかり授業を考えて作り込む機会が必要だと思います。自分で授業を組立、実施する必要があることからマニュアルのない授業を行う良い機会であると思います。

○企画課長

自分の中学校時代とはだいぶ変わっていました。また、工夫をして授業をしていると感じました。この会議の提言がどのように授業に取り込まれるかという視点でみると、先生方が工夫をして取り入れていただけるのではないかと期待が持てました。

学校単位で方向を示し、やりやすい雰囲気を作ることが必要だと思いました。

○委員長

小学生でも子どもたち同士がディスカッションする時間が多く取られているように感じました。良い変化だと思います。

○企画課長

グループワークは意図的に取り入れているのですか。

○学校教育課主任指導主事

主体的、対話的、深い学びを進めている中で、一人ではなくみんなで解決していくことも重視しています。グループワークは過去においても実施してきていますが、急に取り入れたわけではなく、徐々に取り入れられてきたと思います。正解のない時代にはみんなで考えていくことが必要だと思います。また、学校は何を学ぶのかというと、知識を学ぶ場でもあります、学び方を学ぶ場でもあると思います。手法はいろいろあると思いますが、みんなで考えることはその手法のひとつであると思います。

○委員

10年ほど前に感じたことですが、ある質問をすると、一人目が答えて、二人目以降は一人目の答えと同じと答えるケースが良くありました。今回の参観ではそのような場面に出会いませんでした。現在はどうか。

○学校教育課主任指導主事

そのようなケースが全くないわけではありませんが、多面的なアプローチをしますので異なる意見がよく出ている印象です。答えを広げていく授業と1つに集約していく授業がありますので、上手に使い分けていると思います。

子どもたちがアウトプットする機会が増えていることも様々な答えが出る要因だと思います。

○委員

まさに、幸せになるための教育を実現する会議が取り扱うのは、答えを広げていく授業であると思います。

○委員

小学5年生に対して授業を行ったときに、思ったことを言っているよと伝え、思ってもな

い意見が出る場合があります。

○事務局

私が見た道徳の授業では、私が前の人が出した答えと同じだと思える答えも、ちょっと表現が違えば、異なる答えとして取り扱っていました。そのような先生方の取組がいろいろな答えを出す契機となっているのではないかと感じました。

○市長

タブレットの活用でプリントの一斉配布などの効率化や個々の子どもを見ることが進んでいくと感じました。雰囲気では小学校は活発の授業が行われていたと感じました。

○委員

タブレットにより、全員に答えを見られることでプレッシャーを感じる子どもはいないのですか。

○学校教育課主任指導主事

よく考えるようになっていきますのでいいと思います。過去においても手を上げない子は考えていなかったわけではなく、発表するというアウトプットが苦手であったため手があげられなかったと思います。タブレットによって書いて伝えられることでアウトプットできるようになりました。また、先生も答を導く、質問力も磨いていく必要があります。

○学校教育課主任指導主事

雁宿小学校の取組が10月15日の中日新聞に「手紙で幸せ」として取り上げられましたので紹介します。児童が自主的に児童会で企画して、送る人の良いところや好きなところを手紙にして渡すことによって幸せを感じてほしいという取り組みが行われました。すべての児童が受け取れる取組みでした。

雁宿小学校は新聞にとり上げられましたが、児童が主体で様々な取り組みが市内の別の小学校でも行われています。また、各学校の取組の情報共有は先生間では行われています。また、幼小中学校や高校との連携も進めています。

中学校で、生徒会サミットを実施していることも半田市の特徴であると思います。

○委員長

環境は大人が作り、子どもが実行できる状況を作ることが良い形だと思います。また、価値観の異なる人と交わることは成長を促すことにつながると思います。子ども、親、先生を巻き込んだ議論ができると良いと思います。

会議の役割としては前回の会議で市長に対し提言しましたので、教育委員会、教育現場の取組を見守っていきたいと思います。次回の会議では教育現場でどのように取り組むかが見えてきますので共有したいと考えています。また会議としては、アイデアを出していけたら良いと考えています。

○委員

次回の会議で学校での取組事例は紹介できませんか。

○学校教育課主任指導主事

提言を受けての取組はまだスタートしませんので紹介することは難しいと思います。

○委員

4月以降でも結構ですので取組の紹介をお願いします。

○企画課長

教育現場への落とし込み、教育委員会のサポート体制、子どもたちに向き合える時間の確保のための予算措置について検討を行っている最中です。次回の会議でお示しできると思います。

<終了>